# 放射線育種米の品種に全量転換するあきたこまち

## 致命的な欠陥を抱える

### 問題点10に理解すすむ

秋田県種苗交換会で議論を

3面からつづく

えが出るようになる。カドミウムは地球にいい仕事をしてもらいたいと思っている。

一方人間に対しては、地球を悩ます存在だと思っていて、地球を汚したり壊したりする人間の活動を制限させたいと思っている。

これがカドミウムの意志であり、微量のカドミウムは、人間の特別扱いされたい意識（少し悪いことしても特別に許してくれよ）を弱める働きがある。なぜなら、その意識が金儲けに走り、地球を汚したり破壊することに繋がっているからである。

だから微量のカドミウムは人間の精神を健全に保つ役割もある。そして「悪いことしても特別に許される」という思いの強い人は、カドミウムの悪影響を受けやすく、蓄積しやすいが、「悪いことしても特別に許される」という思いの弱い人は、カドミウムの悪影響をあまり受けないし、体に溜まりにくい。

米のカドミウムの基準値は0・4ppmだが、カドミウムが0・5ppmぐらいあると「悪いことしても特別に許される」という意識があぶり出されるので病気になったりする。「悪いことしても特別に許される」という意識を治せば病気も治るが、意識を変えないと病気も治らない。カドミウムがせっかく意識を改めさせようとしているのに、それに逆らうと病気になるということ。改めようとしない場合は、カドミウムの濃度が0・3ppmでも病気になるだろう。

**カドミウムを排出**

人体に蓄積したカドミウムは、御古菌で減らすことができる。一つは御古菌の働きで原子変換に類似した作用で全く別の物質に変換させて無毒化する。もう一つは、御古菌によって免疫が高まり、それによってカドミウムの排出を促す働きがある。

ホメオパシーで対処する場合は、カドミウムのレメディー及び腎臓サポートレメディーをとることで、カドミウムは徐々に減っていく（徐々におしっこで出して行く）。

放射線育種米にするとカドミウムが吸収されなくなるということだが、実際は、吸収されており、根と土壌の共同作業で、カドミウムがビスマス（蒼鉛：猛毒）に原子変換している。ビスマスはカドミウムよりもかなり毒性が強いので、カドミウム米よりも人体に危険な米になっていると言える。ただし吸収されるカドミウムの量は通常のイネの6割程度である。

カドミウムをビスマスに元素転換しているのは、イネとしては、重イオンビームを当てられて恨みがある。それで毒性のあるビスマスに変えている部分もあるが、カドミウムをビスマスに原子変換しているのは、お米自身の働きや考えというよりも、もっと大きな自然界の働きによって生じていること。自然全体が重イオンビーム育種米を作ることの責任を人間にとらせようとしているということ。

**問題点10　生命への冒涜**

遺伝子というのは、膨大な時間をかけて環境と相互作用した結果であり、その膨大な歴史であり、生命そのものです。その生命そのものである遺伝子を重イオンビームやゲノム編集で破壊したり、遺伝子組み換えで、切ったり貼ったり、傷つけたりすることは、その生命に対する冒涜です。生命の尊厳を踏みにじることです。

GABAを抑制する機能を欠失させたゲノム編集ミニトマトや中玉トマト、成長抑制の遺伝子を欠失させたゲノム編集マッチョマダイ、食欲を抑制する遺伝子を欠失させたゲノム編集太ったトラフグ、熟する遺伝子を欠失させたゲノム編集メロン、虫たちが食べると死んでしまうBt毒素を合成する遺伝子を加えたトウモロコシやコットンの開発など、遺伝子操作をされる生物の気持ちになればこのような残酷なことはできないと思います。

遺伝子は生命体が何百万年もかけて環境に適応するために進化してきたもので、それだけでパーフェクトなものです。

それにも関わらず人間ごときが目先の利便性に心を奪われ、遺伝子の一部を破壊したり、他の生命体の遺伝子の一部を合成したりして新生物をつくろうなどという研究開発の方向性自体が大自然を冒涜する大変愚かな行為です。

**科学者は猛省して**

科学者の皆様はこの点を是非一度立ち止まって深く考え猛省していただきたい。

ゲノム編集にしろ、遺伝子組み換えにしろ、重イオンビーム照射にしろ、なぜ植物たちの遺伝子を破壊させる方向に行こうとしてしまうのか。

なぜ化学農薬や化学肥料を大量に作物に使う農業になってしまうのか。なぜ農薬、化学肥料をまかなければ育たないような作物にしてしまったのか。

種の劣化、土地の劣化、土壌菌の劣化、作物の病虫害への耐久力の劣化、栄養の劣化は何が引き起こしたのか？

それは人間の浅はかで短絡的な思考、貪り、我欲、お金崇拝、怖れ、怒り、悲しみによって、自然との共存共栄が出来なくなった結果ではないでしょうか。

この部分を国民一人ひとりが深く考え、しっかりと自分たちが犯した間違いに気づき、自然に回帰し、自然の摂理に合った本来の形に戻していく必要があります。

そのためにも、日本人が、見ザル、言わザル、聞かザルの同調圧力に弱い猿ではなく、インドのように、見るゾウ、言うゾウ、聞くゾウと象のように地に足を付けて何が真実かを見極め、よく聞いて声を上げ、立ち上がっていかなければなければ食い物にされる時代にいるのだと思います。

無知は罪なり。今一度、人間は大いなる自然に、ご神仏様に生かされている理を知り、謙虚に自然と共に人々と虫と共に自然に住まう神仏と共に生きていく事をせねば、世界は崩壊するだろうと懸念します。

なお、この問題は、カドミウム公害、遺伝子組み換えなど人工的な遺伝子操作の問題、チェルノブリはじめ放射能汚染問題などにも長年取り組んでこられた分子生物学者の河田昌東さんに、6月のシンポジウムと10月のJPHMAコングレスでも詳しくお話しいただきました。こちらの講演は、とようけTV、ニコニコ動画「Torachanne」でアーカイブ動画を公開しているので是非ご覧ください。

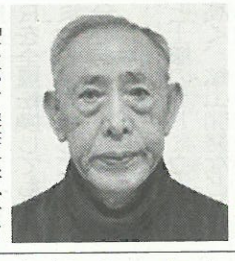
## 他県で回避もEUでオーガニック外に

## 消費者団体が反対声明

秋田県で計画延期および見直しを迫る

## とようけTV、ニコニコ動画で公開

**【分子生物学者　河田昌東氏からのメッセージ】**



「遺伝子操作は原子力以上に私たちの未来に大きな影響を与えるでしょう。私たちは今、何をすべきか真摯に考えなければなりません。」

今、世界は大きく変わろうとしています。世界の経済成長はこれまで主に石油化学を主とした様々な物質（プラスチックなど）の製品を手段としてきましたが、世界の資本家たちは今後は生命操作を経済成長の手立てにしようとしています。放射線による品種改良はこれまでも使われてきましたが、今後はゲノム編集や合成生物学、フードテックなどがAIとともに資本主義の手段になるでしょう。その結果何がもたらされるか、誰もわかりません。

ゲノム編集の現況は53年前に日本で初めて商業用原発が稼働した時によく似ています。

核兵器はだめだが平和利用は未来のエネルギー、とマスコミも湧き立ったのです。しかし、当時から一部の人たちは「事故が起きたらどうする」「放射性廃棄物はどうする」と指摘していました。しかし、政府や原子力の専門家たちは「事故は100万年に一回しか起きない」

「廃棄物はそのうち何とかなる」と答えました。それから50年以上たった今、何一つ解決できていません。遺伝子操作は原子力以上に私たちの未来に大きな影響を与えるでしょう。

私たちは今、何をすべきか真摯に考えなければなりません。

**地元からの発信が大事**

秋田県出身の橋本孝子ホメオパスは父が秋田県で無農薬で無農薬にんにくを栽培しており、「あきたこまちR」の問題に関しては、豊受自然農のツイッター動画から、秋田県で日本を代表するお米「あきたこまち」を放射線育種米である「あきたこまちR」に2025年から全量転換の計画が進んでいることを知って驚き、秋田県で自然型農業に取り組むグループの皆さんと連絡をとり、それがあきたこまちRの計画延期および見直しへの住民有志による八千名の署名となり秋田県庁に提出された。JPHMAコングレスでは地域で声を上げていく重要性を訴えた。